

第114回企画展 群馬県金井遺跡群出土品 重要文化財指定記念

「ヨロイを着た古墳人がみた世界 -奇跡の金井遺跡群-」関連行事 講演会③

「金井遺跡群出土武器の特質－祭具としての武器と朝鮮半島との関係－」

講師：杉山 秀宏 氏(公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団)

「金井遺跡群出土の石製模造品と祭祀」

講師：深澤 敦仁 氏(群馬県地域創生部文化遺産課)

8月8日(日)13:30～15:30

金井遺跡群の武器の特質は、祭具として使用されたと考えられる武器と、朝鮮半島との関係を示す武器が認められることである。

祭具として使用された武器は、金井東裏遺跡の甲を着たまま火砕流により倒れ伏した1号人物の側から出土した25本の鹿角装具を持つ鉄鏃と、銀と鹿角を併用した装具を持つ鏃である。いずれも外に見せることを意識した武器で、祭具として考えられる。また、金井東裏遺跡の3号祭祀遺構からは、鏃が65点も出土しており、鉄器の中で最多数で、祭儀において、鉄鏃が重要な役割を果たしていたことを示している。

朝鮮半島との関係が想定される武器は、素環頭大刀と先ほど祭具とした銀・鹿角併用装鏃である。半島の大刀や鏃と共通性があるもので、金井遺跡群から出土する半島系のいくつかの遺構・遺物とともに、半島の影響を示している。【杉山】

金井東裏遺跡・金井下新田遺跡からは、剣や勾玉などをかたどった石製模造品(石製の祭祀具)や約1万点にのぼる白玉が出土し、5世紀後半～末の祭りのようすを今に伝えています。本講演では、この祭りの跡を丹念に読み解くとともに、群馬県域における石製模造品の生産と流通のようすも踏まえながら、両遺跡のあり方が域内の石製模造品の中でどう位置づけられるかを考えます。有力者による特別な調達の跡や、白玉の役割など、最新の研究成果を交えてご紹介します。【深澤】

●会場：群馬県立歴史博物館 視聴覚室

●定員：140名

●参加費：参加費無料、ただし第114回企画展観覧券が必要です。

※当日以外の企画展観覧券でもご参加いただけます。

(第114回企画展観覧料(常設展も含む)：一般1,200円)

●申込方法 7月8日(水)より、事前申込が必要です。

○当館HP・右QRコードから入力フォームへアクセス

○電話(027-346-5522(開館日の9:30～17:00))

※申込はフォーム、電話とも講演会前日の17:00までとなります。

(定員に達した場合は、早めに受付を終了することがあります。)

講演会③ 入力フォーム



群馬県立歴史博物館

アイ・ディー・エー
高崎市綿貫町992-1(群馬の森内)
TEL. 027(346)5522



ホームページ

